

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (34期)	授業科目	手話言語学		時間数	28 時間
担当教員	市田 泰弘	履修分類	専門科目	科目分類	言語	

【授業概要】 手話言語学について学ぶ。
第二言語としての日本手話の「意識的学習」にも役立つ実践的な内容を中心とする。

【到達目標】 日本手話と日本語の対照分析を通して、二言語間の翻訳に際して理論的な説明ができるようになる。

【授業内容 (予定) 】

1	手話言語の言語的要素：とりわけ非手指要素について
2	日本手話の文法①：非手指要素①—頭の動きについて
3	日本手話の文法②：非手指要素②—顎の位置について
4	日本手話の文法③：非手指標識と手指標識の関係
5	日本手話の文法④：非手指要素③—目のふるまいについて
6	日本手話の文法⑤：「経験する身体」による「経験の語り」①—非能格自動詞
7	日本手話の文法⑥：「経験する身体」による「経験の語り」②—観察構文、発見構文
8	日本手話の文法⑦：「経験する身体」と「非現実の語り」—「否定」をめぐって
9	日本手話の文法⑧：「経験する身体」による「知覚」そのものへの言及①—知覚構文
10	日本手話の文法⑨：「経験する身体」による「知覚」そのものへの言及②—発見構文
11	日本手話の文法⑩：「発見」の文法化とその拡張①—責任性
12	日本手話の文法⑪：「発見」の文法化とその拡張②—被害性と恩恵性
13	日本手話の文法⑫：非手指要素④—口型について
14	日本手話の文法⑬：動詞連続構文と節連鎖構文—「使役」をめぐって
15	日本手話の文法⑭：節連鎖構文—「譲歩」をめぐって
16	日本手話の文法⑮：再帰態と受動態をめぐって
17	日本手話の文法⑯：いわゆる「空間利用」について
18	日本手話の文法⑰：いわゆる「ロールシフト」について
19	CL構文：その分類と機能
20	日本手話の音韻①：手型について
21	日本手話の音韻②：運動と位置について
22	日本手話の音韻③：音変化について

【評価方法】 レポート、発表

【教科書】 なし

【授業の形式と教員紹介】 講義、発表
手話通訳学科元主任教官

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	2年生 (33期)	授業科目	手話言語学		時間数	18 時間
担当教員	市田 泰弘	履修分類	専門科目	科目分類	言語	

【授業概要】

1年次で学んだ手話言語学の知識をもとに、学生自身が感じた日本語との違いについて、発表とディスカッションを行い、二言語間の違いを言語学的に説明することを試みる。

【到達目標】

手話言語学の知識を利用した発表とディスカッションに参加することができる

【授業内容 (予定) 】

1	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション①
2	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション②
3	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション③
4	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション④
5	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション⑤
6	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション⑥
7	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション⑦
8	日本手話と日本語の対照分析：発表とディスカッション⑧
【評価方法】 発表、レポート	
【教科書】 なし	
【授業の形式と教員紹介】 発表とディスカッション 手話通訳学科元主任教官	

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (34期)	授業科目	聴覚障害者の社会		時間数	10 時間
担当教員	木村 晴美	履修分類	専門科目	科目分類	社会	

【授業概要】

ろう文化について多角的に学ぶ
課題としてビデオレポート (手話) あり

【到達目標】

ろう文化に関する手話での議論に参加する

【授業内容 (予定)】

1	手話についての基礎知識①: 「手話は言語である」とはどうか
2	手話についての基礎知識②: 「手話の学び方、L2習得の際に注意すること」
3	手話の習得: 「ネイティブサイナーをめぐって」
4	ろう者の社会①: 「コアメンバーとしてのネイティブサイナー」
5	ろう者の社会②: 「周辺的なメンバーとしての多様な聴覚障害者」
【評価方法】 ビデオレポート、ディスカッション	
【教科書】 なし	
【授業の形式と教員紹介】 ビデオレポートをもとにしたディスカッション。手話通訳学科専任教員。	

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (34期)	授業科目	聴覚障害者の社会		時間数	10 時間
担当教員	木村 晴美	履修分類	専門科目	科目分類	社会	

<p>【授業概要】 ろう文化について多角的に学ぶ 課題としてビデオレポート (手話) あり</p>
<p>【到達目標】 ろう文化に関する手話での議論に参加する</p>

【授業内容 (予定)】	
1	文化人類学における定義、生活様式、行動様式
2	KL・ELK・DELK ビデオレポートをもとにディスカッション
3	医学的視点・文化的視点、Deafhood ビデオレポートをもとにディスカッション
4	異文化理解への5つのステップ ビデオレポートをもとにディスカッション
5	自文化中心・異文化理解 ビデオレポートをもとにディスカッション・まとめ
【評価方法】 ビデオレポート、ディスカッション	
【教科書】 なし	
【授業の形式と教員紹介】 ビデオレポートをもとにしたディスカッション。手話通訳学科専任教官。	

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (34期)	授業科目	聴覚障害者の社会		時間数	10 時間
担当教員	野口 岳史	履修分類	専門科目	科目分類	社会	

【授業概要】

「ろう文化」のろう文化宣言をもとに、学生自身が要点をまとめ発表する形で進める。

【到達目標】

書記日本語から要約し、日本手話で発表できる。

【授業内容 (予定)】

1	ろう文化宣言 デフ・コミュニティー 口話主義
2	トータル・コミュニケーション メインストリーミング 人工内耳
3	バイリンガリズム シムコム 日本手話のできない手話通訳者
4	ろう者と中途失聴者・難聴者 聴覚障害という用語の問題点
5	まとめ

【評価方法】 発表、ディスカッション

【教科書】 ろう文化 (現代思想編集分編2000)

【授業の形式と教員紹介】 講義、発表、ディスカッション

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (34期)	授業科目	聴覚障害者の社会		時間数	10 時間
担当教員	江原 こう平	履修分類	専門科目	科目分類	社会	

【授業概要】

聴覚障害者の社会の基本知識を習得する。
学生自身の体験などをもとに発表およびディスカッションを行う。

【到達目標】

聴覚障害者の社会に関して学生自身の異文化体験もふまえた議論に参加できる

【授業内容 (予定)】

1	手話についての基礎知識①：「手話」・「第一言語と第二言語」
2	手話についての基礎知識②：「手話を学ぶ者、手話通訳者をめざす者とろう社会」
3	「通訳・手話通訳についての基礎知識」
4	「手話通訳についての基礎知識」
5	「ろう者と多様な聴覚障害者」

【評価方法】 レポート、発表、ディスカッション

【教科書】 なし

【授業の形式と教員紹介】 講義、発表、ディスカッション。手話通訳学科専任教員。

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (34期)	授業科目	聴覚障害者の社会		時間数	20 時間
担当教員	各分野ごとの ゲスト講師	履修分類	専門科目	科目分類	社会	

【授業概要】

聴覚障害者の社会のうち、比較的特異な分野について、各分野ごとのゲスト講師を招いて学ぶ

【到達目標】

聴覚障害者の社会のなかでも比較的特異な分野に関する議論に参加できる

【授業内容 (予定)】

1	聴覚障害者の社会 (精神障害)
2	聴覚障害者の社会 (ろう重複障害)
3	聴覚障害者の社会 (盲ろう者)
4	聴覚障害者の社会 (ケースワーク)
5	聴覚障害者の社会 (司法)

【評価方法】 レポート

【教科書】 なし

【授業の形式と教員紹介】 講義
各分野の専門家

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1-2年生合同 (33期・34期)	授業科目	通訳理論 (翻訳理論)		時間数	16 時間
担当教員	深井裕美子	履修分類	専門科目	科目分類	通訳	

【授業概要】
通訳理論について学ぶ

【到達目標】
通訳理論にもとづいた議論に参加できる

【授業内容 (予定) 】

1	通訳とはなにか・翻訳とはなにか
2	通訳・翻訳と「絵」
3	通訳・翻訳に必要な知識
4	通訳・翻訳の目的と準備

【評価方法】 レポート

【教科書】 なし

【授業の形式と教員紹介】 講義
株式会社ネスト代表取締役、日本映像翻訳アカデミー講師

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (34期)	授業科目	手話通訳論		時間数	30 時間
担当教員	江原 こう平	履修分類	専門科目	科目分類	通訳	

<p>【授業概要】 手話通訳技能認定試験学科試験対策 手話通訳のあり方を学ぶ</p>
<p>【到達目標】 手話通訳技能認定試験学科試験「手話通訳のあり方」に合格する</p>

【授業内容 (予定)】	
1	手話通訳技能認定試験 (手話通訳士試験)、手話通訳者全国統一試験、全国手話検定試験等の説明
2	手話通訳のあり方 (手話通訳の役割)
3	手話通訳のあり方 (言語・文化・コミュニケーション)
4	手話通訳のあり方 (通訳理論)
5	手話通訳のあり方 (手話通訳者の実際)
6	手話通訳のあり方 (手話通訳の業務・派遣コーディネイト業務)
7	手話通訳のあり方 (手話通訳者としての一般教養)
8	手話通訳のあり方 (手話通訳者としての一般教養)
9	事例検討① (医療場面)
10	事例検討② (講演場面)
11	事例検討③ (会議場面)
12	事例検討③ (面接場面)
13	事例検討④ (面談場面)
14	事例検討⑤ (就労場面)
15	事例検討⑥ (通訳現場で起こりうる事例)
【評価方法】 レポート	
【教科書】 『六訂 手話通訳技能認定試験傾向と対策』 (中央法規出版)、『手話通訳を学ぶ人の「手話通訳学」入門』 (クエイツかもがわ)、『マンガで読む手話通訳事例集』 (新日本プロセス)	
【授業の形式と教員紹介】 講義 手話通訳学科専任教官	

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	2年生 (33期)	授業科目	手話通訳論		時間数	22 時間
担当教員	江原 こう平	履修分類	専門科目	科目分類	通訳	

【授業概要】

手話通訳技能認定試験対策
 模擬通訳や手話通訳実習の準備の仕方を学ぶ
 模擬通訳や手話通訳実習における事例検討をとおして手話通訳論を学ぶ

【到達目標】

模擬通訳や手話通訳実習の準備、事例検討、総括ができるようになる

【授業内容 (予定)】

1	手話通訳とは (手話通訳のあり方)
2	手話通訳技能認定試験対策 (手話通訳のあり方)
3	手話通訳技能認定試験対策 (障害者福祉の基礎知識)
4	手話通訳技能認定試験対策 (聴覚障害者に関する基礎知識)
5	手話通訳技能認定試験対策 (国語)
6	夏期手話通訳実習について
7	夏期手話通訳実習における事例検討
8	夏期手話通訳実習のまとめ
9	冬期手話通訳実習について
10	冬期手話通訳実習における事例検討
11	冬期手話通訳実習のまとめ

【評価方法】 レポート

【教科書】 なし

【授業の形式と教員紹介】 想定問題の作成と解答、事例検討
 手話通訳学科専任教員

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	2年生 (33期)	授業科目	手話通訳論		時間数	10 時間
担当教員	卒業生	履修分類	専門科目	科目分類	通訳	

<p>【授業概要】 手話通訳論の一環で、卒業生をゲストとして招いて、さまざまな形態の手話通訳の実情について学ぶ。</p>
<p>【到達目標】 さまざまな形態の手話通訳の実情をふまえた議論に参加できる</p>

【授業内容 (予定)】	
1	聴覚障害者情報提供施設職員として
2	社会福祉協議会職員として
3	自治体職員として
4	フリー通訳として
5	民間企業社員として
【評価方法】 レポート	
【教科書】 なし	
【授業の形式と教員紹介】 講義 さまざまな分野で活躍する卒業生	

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	2年生 (33期)	授業科目	手話通訳論		時間数	16 時間
担当教員	ろう通訳者	履修分類	専門科目	科目分類	通訳	

<p>【授業概要】 手話通訳論の一環で、ろう通訳者をゲストとして招いて、さまざまな形態の手話通訳の実情について学ぶ。</p>
<p>【到達目標】 さまざまな形態の手話通訳の実情をふまえた議論に参加できる</p>

【授業内容 (予定)】	
1	ろう通訳とは
2	ろう通訳の実際
3	ろう通訳の実際
4	ろう通訳の実際
5	ろう通訳の実際
6	ろう通訳の実際
7	ろう通訳の実際
8	ろう通訳の実際
【評価方法】 レポート	
【教科書】 なし	
【授業の形式と教員紹介】 講義 さまざまな分野で活躍するろう通訳者	

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (34期)	授業科目	聴覚障害者の教育		時間数	20 時間
担当教員	各分野ごとの ゲスト講師	履修分類	専門科目	科目分類	知識	

<p>【授業概要】</p> <p>聴覚障害児の教育に関して、概論から実践まで、分野ごとのゲスト講師を招いて学ぶ</p>
<p>【到達目標】</p> <p>聴覚障害児の教育に関する議論に参加できる</p>

【授業内容 (予定)】	
1	聴覚障害児の教育 (概論)
2	聴覚障害児の教育 (概論)
3	バイリンガル教育 (概論)
4	バイリンガル教育 (実践)
5	日本における聴覚障害児教育
【評価方法】 レポート	
【教科書】 なし	
【授業の形式と教員紹介】 講義 各分野ごとの専門家	

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (34期)	授業科目	聴覚障害者のリハビリテーション		時間数	14 時間
担当教員	成田 あゆみ	履修分類	専門科目	科目分類	知識	

<p>【授業概要】 手話通訳に必要な聴覚障害者のリハビリテーションに関する基本的な知識を学ぶ</p>

<p>【到達目標】 手話通訳士試験学科試験の合格</p>

【授業内容 (予定)】

1	疑似難聴体験
2	聴覚の意義、難聴の影響
3	聴力検査をしてみよう、耳の構造と聞こえのしくみ
4	難聴の種類と原因
5	補聴器と人工内耳
6	医学の新しい流れ
7	超早期からのリハビリテーション

<p>【評価方法】 レポート</p>

<p>【教科書】 なし</p>

<p>【授業の形式と教員紹介】 講義 当学院言語聴覚学科専任教員</p>

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	1年生 (34期)	授業科目	聴覚障害者の福祉		時間数	20 時間
担当教員	木村 晴美	履修分類	専門科目	科目分類	知識	

【授業概要】 イマージョンプログラムのひとつとして実施する
聴覚障害者の福祉に対する理解を深める

【到達目標】 自分で調べたことをまとめ、手話で報告する (ろう者にわかりやすいプレゼンができるようにする)
ろう者にわかりやすいプレゼン資料 (パワーポイント等) を作る

【授業内容 (予定)】

1	「ろう者のコミュニケーション」 「難聴者のコミュニケーション」 「中途失聴者のコミュニケーション」 「盲ろう者のコミュニケーション」
2	「ろう重複 (障害者) のコミュニケーション」 「補聴器の仕組み」 「人工内耳の仕組み」 「ギャローデット大学と筑波技術大学」
3	「新生児聴覚スクリーニング検査」 「身体障害程度等級 (聴覚障害にかかわる部分)」 「聴覚障害学生への支援」 「聴覚障害者特別養護老人ホーム」
4	「道路交通法改正 (運転免許取得運動)」 「民法改正 (第11条) 準禁治産者」 「民法改正 (第969条) 公正証書遺言」 「国連の障害者権利条約」
5	「障害者差別解消法 (合理的配慮)」 「電話リレーサービス」 「障害者雇用率制度 (法定雇用率と罰則)」 「蛇の寿司事件」
6	「ろう者の参政権 ～選挙権～ 政見放送等」 「ろう者の参政権 ～被選挙権～ 議員としての活動等」 「デフリンピックとパラリンピック」 「障害を理由とする差別条項撤廃 (欠格条項の撤廃)」
7	「障害者手帳を有することで受けられるさまざまな福祉サービス」 「3. 3 声明 (京都府ろう学校)」 「視聴覚障害者向け放送の普及促進」 「標識、耳の日、手話言語デー」

8	「意思疎通支援事業」 「日常生活用具、補装具、障害者基礎年金」 「手話言語法」 「災害時における福祉支援体制の整備等」
9	復習 上記タイトルのうち1～2タイトル、修正のうえ、再発表
10	復習 上記タイトルのうち1～2タイトル、修正のうえ、再発表
【評価方法】 発表、再発表	
【教科書】 なし	
【授業の形式と教員紹介】 発表とディスカッション 手話通訳学科専任教員	

令和5年度 手話通訳学科 シラバス (授業計画)

学 年	2年生 (33期)	授業科目	聴覚障害者の福祉		時間数	8 時間
担当教員	全日本ろうあ連盟	履修分類	専門科目	科目分類	知識	

【授業概要】

ろうあ団体から講師を招き、ろうあ運動の過去・現在・未来について学ぶ。

【到達目標】

ろうあ団体の歴史、現状、展望にもとづいた議論に参加できる

【授業内容 (予定) 】

1	ろうあ団体の歴史と組織
2	ろうあ運動のこれまで①：民法改正、運転免許
3	ろうあ運動のこれまで②：手話通訳制度化、手話言語条例、手話言語法
4	差別問題への対応：手話通訳派遣拒否問題等、東日本大震災から学んだこと、旧優生保護法下の強制不妊手術等問題ほか

【評価方法】 レポート

【教科書】 なし

【授業の形式と教員紹介】 講義

ろうあ団体からの派遣講師